

助成事業実施報告書

団体名 みたか・みんなの広場運営協議会

代表者・役職名 氏名 代表 成清 一夫



▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

「三鷹の高齢者お役立ちハンドブック(改訂版)」の発行及び配布

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2011年6月18日、三鷹市内の会合で、「たったひとつの団体でできることは限られている。三鷹にはたくさんの活動団体があるのだから、それらの団体が協働活動し、点から線、線から面へと、活動を展開しなければならない。」という発言があり、この発言に賛同した団体が共同して国の「新しい公共モデル事業」の助成を得て活動を開始し、現在に至っています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

高齢者問題は、問題の複雑さに加えて、高齢者へのわかりやすい情報提供が不足しています。高齢者自身も情報を求めていることは、2018年に実施したアンケートからも明らかです。一方、「まだ、元気だから。」という考えたくない症候群=先送りの状況も見えています。我々は情報をわかりやすく提供すると同時に、「元氣なうちに考える」ということの重要性を提起していきたいと考えています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

当団体の構成団体のひとつである”NPO法人HumanLoop・人の輪”は、8年前に「お役立ちハンドブック」を作製し、提供しました。その後、高齢者をとりまく社会状況や、介護保険制度や生活環境も大きく変化しています。そこで、初版の意図を継承し、これからも安心・安全を維持するために、新たに高齢者世帯の生活実態を再調査し、その結果をふまえて、高齢者が実際に必要とする情報を、わかりやすいハンドブックとして提供したいと思います。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

ハンドブックは、当初予定の1か月おくれで1月20日に納品されました。それから、市関係部署、市議会、社協、地域包括支援センター、当グループメンバーの知人、この期間の開催イベント等での配布を行っています。反応としては、お礼のハガキやメールのほか、「知らなかったことがわかりやすく書いてある」「字が大きくて読みやすい」「(郵送した方)市役所からこんなものを送ってきた」「(老人会の方)全員に配りたいので、あと50部ほしい」「市役所が全戸配布すべき」という声も届いています。納品から一か月後の在庫は500部」と、事業としては大きな成果があったと思っています。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

配布先と入手した方の感想と意見を集約して、今後の活動の参考にしていきたいと思っています。また、これを機縁として、地域とのさらなる結びつきができれば、と思っています。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり 特になし

